

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成30年度 兵庫県農業気象技術情報第3号（7月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>1 病害虫</p> <p>(1) イネ縞葉枯病について、ヒメトビウンカの保毒虫率は、定点平均で2.0%と昨年に比べやや高く、西播磨地域では依然として、4.3%、3.2%など高い地点がみられている。5月下旬のムギ県予察ほ場におけるすくい取り調査では、第1世代幼虫の発生が認められた。発生量は、幼虫9頭/10回振と平年の45.6頭と比べて少なかったが、今年度については発生時期が遅いとみられることから、今後、平年並の発生になると考えられる。（ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒検定結果は以下のアドレス参照）。 <a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/2018hodoku.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/2018hodoku.pdf</a></p> <p>(2) プラスタムによると、6月7日に県内ほぼ全域で、6月21日にも播磨地域を中心に葉いもち感染好適日が出現している。気温は平年並または高く、降水量は、平年並または少ないと予想されるため、平年並みに葉いもちが発生する可能性があるため、今後の発生に注意する。</p> <p>(3) カメムシ類による斑点米の発生が予想される。</p>	<p>1 病害虫</p> <p>(1) 保毒虫率の高い地域や昨年度発病が多く見られた地域では、本田での薬剤防除を実施する。特に、育苗期後半～田植時に薬剤施用をしていない場合は必ず実施する。保毒虫率が低い地域であっても、ヒメトビウンカの発生が多いと本病が多発生することがあるので注意する。</p> <p>(2) 補植苗は早急に処分する。ほ場をよく観察して葉いもちの発生状況を把握する。特に、湛水直播には注意が必要である。葉いもちが発生している場合はただちに防除する。また、強い中干しを避け、穂いもちの防除は穂ばらみ期～出穂直前に実施する。</p> <p>(3) カメムシ類対策として出穂2週間前までに畦畔の草刈りを行い、乳熟期から糊熟期までに防除を行う。</p>
	県北	<p>1 生育</p> <p>葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈は短い。茎数は平年より多い。</p>	<p>1 生育</p> <p>出穂期予測を参考に穂肥の施用を行う（分施肥系の場合）。</p>

水稲	全県共通	1 生育 葉齢の進展は平年並み。草丈は平年並み。茎数は少ない。	1 生育 出穂期予測を適宜確認し、中干しの実施、穂肥（分施肥体系の場合）を施用する。中干しは小ひびが入れば走り水を施し、おおむね10日間程度とする。
大豆	全県共通	1 栽培管理 「サチユタカA1号」は、播種適期の6月下旬～7月上旬では8～12株/m <sup>2</sup> の栽植密度とし、播種が7月中旬になれば20株/m <sup>2</sup> の密播とする。  2 病虫害 黒大豆の茎疫病の常発地では、排水対策を徹底する。	1 栽培管理 播種直前に耕うん、砕土を丁寧に行い、播種する。 明きょ等の排水対策を必ず講じる。 中耕培土を行う場合は、除草を兼ねて早めに行う（目安は本葉3葉期以降）。

※ブラスタム:葉いもちの発生予測システム。気象条件から感染を推定し、発生時期を予測する。  
毎週、月曜日に更新。

[参考] 水稲生育予測 [近畿中国四国版] (注)

(6/26現在)

時期	北但平坦部 (豊岡市八社宮) 移植日 5/15 3.5葉植 コシヒカリ	県北山間部 (新温泉町丹土) 移植日 5/10 3.5葉植 コシヒカリ	南但平坦部 (朝来市和田山町枚田) 移植日 5/20 3.5葉植 コシヒカリ	県南平坦部 (加西市別府町) 移植日 6/1 3.5葉植 キヌヒカリ	淡路平坦部 (南あわじ市榎列) 移植日 6/20 3.5葉植 キヌヒカリ
予想出穂期	7/30	8/2	8/3	8/11	8/20

(注) 予想出穂期は6/26以降、気温が平年並に推移した場合の予測値です。

作物	地域	栽培上の留意点	対応策								
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 目標とする収穫時期に応じた播種時期を守る。</p> <p>(2) 高温期の育苗のため、過乾燥・過湿に注意して健苗育成に努める。</p> <p>(3) 育苗中期以降の肥料切れに注意する。</p> <p>(4) 降雨によるほ場作業の遅れや、台風、長雨による冠水に注意する。</p> <p>(5) 定植後の活着促進と欠株の発生防止に努める。</p> <p>2 病虫害</p> <p>「病虫害発生予察情報」「病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に適正に防除する。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 地域の暦に従って種子、育苗資材等の準備を進める。</p> <p>(2) 浮かせ育苗に努め、苗が徒長しないよう注意する。発芽後、子葉の奇形など異常のある苗は取り除く。</p> <p>(3) 苗が肥切れしそうな時は、早めに液肥等を施用する。</p> <p>(4) 高畝栽培とし、明きよ等の排水対策を徹底する。</p> <p>(5) 少雨の際に有効な、畝間灌水ができるほ場を選ぶ。耕うん、畝立ては土壌が適湿でこなれやすい時に行ない、すみやかに定植する。機械移植では、苗が直立し、鉢土が十分に土壌に埋まるよう、必要に応じて手直しする。定植後、灌水チューブ等で十分に灌水する。</p>								
果樹	全県共通	<p>1 生育</p> <p>平年比及び昨年比で生育は早まっている（下表）。</p> <p>樹種別の生育状況</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>クリ※<sup>1</sup></td> <td>開花期は昨年比で2日早く、平年比で7日早い。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ※<sup>1</sup></td> <td>開花期は平年及び昨年比で2～3日早い（バラツキ有り）。</td> </tr> <tr> <td>ナシ※<sup>2</sup></td> <td>生育は昨年比7日、平年に比べて6～7日早い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク※<sup>1</sup></td> <td>発芽期は平年比で5日早い。着果始めは平年比で4日早い。</td> </tr> </tbody> </table> <p>調査地点：※1は加西市、※2は但馬地域</p> <p>2 病虫害</p> <p>果樹カメムシ類の発生がやや多い。ナシは、ハダニ類・黒斑病の発生がやや多い。黒星病の発生は平年並み。（果樹カメムシ類については防除情報第2号を参照）。</p> <p><a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/30boujyo2.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/30boujyo2.pdf</a></p>	クリ※ <sup>1</sup>	開花期は昨年比で2日早く、平年比で7日早い。	ブドウ※ <sup>1</sup>	開花期は平年及び昨年比で2～3日早い（バラツキ有り）。	ナシ※ <sup>2</sup>	生育は昨年比7日、平年に比べて6～7日早い。	イチジク※ <sup>1</sup>	発芽期は平年比で5日早い。着果始めは平年比で4日早い。	<p>1 生育</p> <p>降雨が多くなった場合に備え、雨水がすみやかに園外に流れるよう、明きよや排水溝の掃除等の排水対策に努める。</p> <p>高温少雨が続く場合は、灌水設備や敷き草などで乾燥防止対策を実施する。また、早めの灌水を行う。</p> <p>2 病虫害</p> <p>園地での発生状況を観察し、必要に応じて適期防除に努める。</p> <p>雨で発生が助長される病害等に留意し、降雨の合間を見て適期防除に努める。</p>
クリ※ <sup>1</sup>	開花期は昨年比で2日早く、平年比で7日早い。										
ブドウ※ <sup>1</sup>	開花期は平年及び昨年比で2～3日早い（バラツキ有り）。										
ナシ※ <sup>2</sup>	生育は昨年比7日、平年に比べて6～7日早い。										
イチジク※ <sup>1</sup>	発芽期は平年比で5日早い。着果始めは平年比で4日早い。										

◎水稲・麦・大豆の栽培については、「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病虫害発生予察情報」及び「病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。  
※本情報は、6月26日時点のデータを元に作成しています。

## 2 気象予報

### (1) 近畿地方の向こう1か月予報（6月23日～7月22日）

[平成30年6月21日 大阪管区気象台発表]

#### 【概要】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

#### 【確率】

○気温、降水量及び日照時間

【近畿地方】		□低い(少ない)	□平年並	■高い(多い)	(単位:%)
気温	20	40	40		
降水量	30	40	30		
日照時間	20	40	40		

○各週の気温経過 【近畿地方】 □低い □平年並 □高い (単位:%)

	□低い	□平年並	■高い
1週目	20	50	30
2週目	20	30	50
3～4週目	20	40	40

### (2) 近畿地方の向こう3か月予報（7月～9月）

[平成30年6月25日 大阪管区気象台発表]

#### 【概要】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。7月 期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少なく、後半は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

#### 【確率】

○気温

【近畿地方】		□低い	□平年並	■高い	(単位:%)
3か月	20	30	50		
7月	20	30	50		
8月	20	40	40		
9月	20	40	40		

○降水量

【近畿地方】		□少ない	□平年並	■多い	(単位:%)
3か月	40	40	20		
7月	40	40	20		
8月	30	40	30		
9月	40	30	30		

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」  
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」  
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「Web 水稲生育予測システム」  
<http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稲生育予測」  
<http://www.finds.jp/ricediag/>
- ・「ブラスタム情報」  
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」  
[http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11\\_000000107.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)
- ・「平成30年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果」  
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/2018hodoku.pdf>

問い合わせ先

**本情報に関すること**

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)  
農産班: 主作・機械担当 内線 4074  
農産班: 野菜担当 内線 4054  
花き果樹班 内線 4066

**技術内容に関すること**

- ・県立農林水産技術総合センター  
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435  
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410  
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790) 47-1222  
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230  
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : [http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11\\_000000097.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html)  
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)